

令和6年度 学校経営計画・学校評価シート			高知県立白高特別支援学校高知みづき分校		
《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かにたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	【目指すべき姿】 学校像 生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが安心して学ぶ学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目標達成の概要と現況	◎ ステップアップシートを最大限に活用した生徒の自立支援 ○ ステップアップシート取扱の習熟と改善、PDCAの確立 ・ 校内の学習と現場実習のPDCAの確立 ・ 生徒の社会的行動の確立とソーシャルスキルの確立 ※ SST、学級会議の開催、仲間同士の関わりの中で、人間関係の維持・形成を図る。 ○ 就労支援 ・ 作業学習の改善、職場見学、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験、現場実習先の拡大、新規作業種の設置準備 ○ 地域連携 ・ 地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進 ◎ 生徒へのより充実した支援体制の構築 ○ 校内での情報共有体制の確立 ○ 外部機関との更なる連携	
《取組の方向性》	④「4つの基本方針」 ①「高知家の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進」 ②「高知家の子どもも誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進」 ③「高知家の誰もが、生じにわたって学ぶことができる環境づくりと取組の推進」 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	児童生徒像 「明るくたくましく生き抜く力をもった生徒を育てる」 ① 自己決定できる生徒（見つけよう！ になりたい自分） ② 自ら就労を目指す生徒 ③ 生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ④ 地域と連携し、貢献できる生徒			

【評価】									
項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見出しのポイント【A】	
専門性の向上・教育内容の充実	就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上	【現状】 ①全教職員が企業就労や福祉的就労について、基礎的な知識は身に付けていることができたが、さらに研修を深めていく必要がある。また、保護者への進路についての学習会も必要と思われる。 ②職業科(作業学習)等におけるキャリア教育の視点を踏まえた更なる授業改善に取り組む必要がある。 ③心身に課題があり、精神面で弱さや不登校傾向のある生徒が増加してきている。 ④各授業でのICT活用及び教材づくりは進んでおり、Chromebookの活用もできつつある。教職員間での情報共有はまだ充分にはできていない。 【評価指標】 ①進路指導の基礎に関する理解 ・全教職員が、生徒・保護者に進路先への手続等について説明できるようにする。 ②キャリア教育の視点に基づいた授業づくり・授業改善 ・職業科(作業学習)において、重点的に取り組む。 ③不登校傾向・登校渋りの解消・低減 ・生徒、保護者への適切な支援に取り組む。 ④ICT機器(Chromebookや電子黒板等)の有効活用 ・生徒間のコラボレーションを意識した授業づくり	①教職員及び保護者対象に進路学習会を開催する。 ②職業科(作業学習)内容のブラッシュアップに努める。また、「キャリア教育戦略会議」を開催し、一般企業等からの助言をいただく。 ③生徒の現状を教師間で共有し、学校全体で支援方法を検討していくとともに、SC、SSWとの連携を図りながら、生徒や家庭への継続的な支援を行うことで、不登校傾向や登校渋り解消又は低減を図っていく。 ④今後もChromebook内のアプリケーションソフト(Jamboard、Spreadsheet等)を有効に活用し、生徒の発力や分析能力、課題解決能力の向上を目指す授業を行っていく。また、教師のICT機器活用能力の向上のために、GIGAスクールサポーターによる授業参観を依頼し、授業でのICT活用へつなげる学習会を定期的に開催する。	B	①教職員対象に企業就労や福祉的就労についての学習会を開催することができた。また、今年度は、教育相談業務(発達検査等)についての学習会も行なった。 ②現在、職業科(作業学習)を中心としたシナリオ作成に取り組んでいる。また、企業組合と連携を行い、本校の作業学習等への助言を受ける場の設定を検討している。 ③生徒の現状や支援の仕方等については、学校全体で情報共有を行うことができている。SC、SSWの活用についても積極的に行うことができている。また、教職員の専門性の向上のため、SC講演会を8月に実施している。 ④県のGIGAスクールサポーターを活用しながら、情報機器の積極的な活用につなげることができている。	①保護者対象の進路学習会も実施し、生徒たちのより充実した進路決定につなげる。(令和7年1月予定) ②「キャリア教育戦力会議」の2学期実施に向けて調整を行っている。 ③引き続き、SC、SSWと連携を行い、生徒支援につなげていく。 ④継続して県のGIGAスクールサポーターを活用しながら教職員のChromeBookの活用方法のスキルアップを目指す。また、授業での活用方法の情報共有を行う。	①教職員対象、保護者対象に「障害基礎年金」や「グループホーム」についての進路学習会を開催することができた。また、次年度も継続的に全教職員、保護者が企業就労や福祉的就労について、基礎的な知識を身に付けることができるように学習会を開催する必要があると思われる。 ②企業組合の定例会に管理職、進路担当者が参加し、高知わかき分校の教育活動(現場実習)や「キャリア教育戦略会議」の説明を行うことができた。同会議については、令和7年2月20日(木)に開催予定としている。 ③不登校傾向・心理面の不安定さや登校渋りのある生徒への対応は、学級・学年を中心にSC、SSWを活用しながら行うことができた。 ④県のGIGAスクールサポーターを活用し、Chromebookやグループウェアの活用方法についての理解を深めることができた。(年:11回)	B	①進路指導に関する学習会は、教職員のスキルアップを目指し、今後も継続して行っていく。また、保護者対象の進路学習会も継続して行い、学級担任と保護者の進路指導に関する共通理解を図り、より充実した進路先につなげる。 ②「キャリア教育戦略会議」へ参加していただくことにも障害者への理解啓発に努める。また、次年度は、万々商店街にも参加を願っている。また、今年度は、万々商店街に内容については年度初めに計画を立て、より充実したものとしていく。 ③不登校傾向のある生徒への対応については、今後も学級担任を中心としながら、SC・SSWを活用した取組を進めていく。引き続き情報共有を行い、生徒への支援につなげていく。また、Chromebookの授業での活用事例等についての研修会を実施する。
		【現状】 ①生徒の希望する就労先への就労はほぼできている。一般就労率の目標も達成することができた。定着率向上させるためにもアフターケアを充実させることが必要である。 ②JSP制度の活用により、2事業所・1専門学校から専門家の派遣を受け、生徒の職業能力の向上に資することができる。 ③現場実習後に事業所からの評価を受け、生徒自身が次の目標(ステップ)を設定し、その目標を達成するため、「ステップアップシート」の活用ができていく。 ④これからの社会生活において、異文化や異人種の理解をすすめる国際理解力の育成が必要である。 ⑤余暇活動については、陸上競技等についてはつなげることができるが、学校全体ではまだ取り組む事ができていない。 【評価指標】 ①希望進路の100%確定(一般就労率=80%)及び離職率の低減 ・実習・進路先の確保(新規開拓)及び情報提供 ・アフターケアの適切な実施 ②生徒の職業能力(知識・技能等)の向上・維持 ・職業科(作業学習)の授業改善(専門家からの助言) ・技能検定1級取得15名以上、アビリンピック入賞5名以上 ③ステップアップシートの有効活用 ・学校や作業場の情報共有及び指導体制の確立 ・ステップアップシートの利便性の向上(シート改良) ・開示シートによる情報共有(生徒・保護者) ④SDGs等の視点を取り入れた授業づくり(各教科等) ・環境教育、国際理解教育への取組 ⑤余暇活動についての意識喚起 ・アンケート調査を実施	①就職アドバイザーとの連携により、新規の実習・進路先の確保(50件以上を目指す)に努めるとともに、進路に関する情報提供(「進路だより」の発行)を年間5回以上行う。また、「高等部卒業生のアフターケア事業」を積極的に活用し、卒業生の就労先の訪問を行うことで、聞き取り調査等を行っている。 ②JSP制度の活用を継続し、職業科(作業学習)において、外部専門家による評価(ソーシャルスキル、ワークスメント)を受けることにより、さらなる職業能力の向上及び維持につながる授業改善に取り組む。技能検定等での級や賞の取得で取組の成果を検証していく。 ③個々の生徒の職業能力上の強みや課題をステップアップシートに整理するとともに、学級及び作業班でその情報を共有し、学級活動や作業学習等において、統一した指導・支援に取り組む。また、進路相談支援部を中心に、各学級担任等が、シート全体の構成や生徒・保護者への振り回りの利便性を検証し、より良いものに改善していく。 ④社会科、英語科等の各教科、特別の教科道徳、特別活動等において、SDGs等に関する内容を年間1回以上計画、実施する。 ⑤職業科(教科)において、就労支援の一環として取り組む。	B	①8月末現在における、新規の実習・進路先の確保は、19件となっている。(新規開拓2件)また、卒業生へのアフターケアについては、適宜、行っており、(8月末現在で50件)「進路だより」については、現在6回発行されている。過去の就労先についても保護者に情報提供をできている。 ②アビリンピックや技能検定に向けての練習を教育課程上に取り入れながら行っている。また、技能検定等においては、企業や地域で練習をしながら取り組んでいる。また、アビリンピック高知大会の「喫茶サービス部門」で金賞を取得し、全国大会に出場することができた。 ③SDGs等に関する内容の授業について実施する。 ④引き続き、ステップアップシートの活用を進めていく。また、各生徒の作業学習の様子や目標について、学級担任との共通認識をさらに充実させる。 ⑤SDGs等に関する内容については、社会科で扱うことができる。 ⑥余暇活動についてのアンケート調査は、まだ実施する事ができていない。	①引き続き就職アドバイザーと連携し、新規の実習・進路先の開拓を進めていくとともに、アフターケアにも適宜取り組んでいく。また、「進路だより」等により進路に関する情報を保護者に提供する。 ②2学期以降もJSP制度の活用により、生徒の職業能力(知識、技能等)の向上を計画的に進めていく。 ③引き続き、ステップアップシートの活用を進めていく。また、各生徒の作業学習の様子や目標について、学級担任との共通認識をさらに充実させる。 ④SDGs等に関する内容の授業について実施する。 ⑤2学期中に余暇活動についてのアンケートを実施する。(生徒対象)	①就職アドバイザーと連携しながら、実習・進路先の開拓を行うことができる(361件)うち新規開拓75件)。アフターケアについても適宜行っている(年:127件)。「進路だより」については、年13回発行されている。(令和7年2月1日現在) ・一般就労(A型を含む):73.3% ②年間を通してJSP制度を活用し、外部専門家からの助言(年:環境サービス6回、物流実務6回、フードビジネス10回)を受け、生徒の職業能力向上を図ることができ、成果として、技能検定等において多くの1級等の取得者を輩出できた。また、アビリンピック高知大会の「喫茶サービス部門」で金賞を取得し、全国大会に出場することができた。 ③ステップアップシートを活用して、生徒・教師・保護者で指導方法の方向性を合わせることができた。今後も活用しながら改善を加えていきたい。 ④SDGs等に関する内容については、社会科・家庭科・職業科・防災学習で扱うことができる。 ⑤余暇活動のアンケートは実施することができなかった。今後、chromebookを使用して実施できるように現在、準備を行っている。また、陸上部については、障害者スポーツセンターの駅伝大会に向けてスペシャルオリムピックスチーム(陸上)や卒業生と合同で練習を行い、参加することができ、余暇活動の意識付けにつながった。	B	①実習・進路先の開拓、確保については、できていると思う。一般就労率の目標は達成することはできていなかったが、生徒の実態もあるので十分ではないかと思う。 ②JSP制度は、十分に活用できていると思う。技能検定、アビリンピックについても練習を重ね、結果を出すことができている。 ③ステップアップシートの活用ができてきているので、今後もさらに改善していてもいい。 ④余暇活動は、仕事をするうえで重要なことである。どのような余暇活動を行うかなど保護者へアンケートをとる場合は、個別面談で聞くなどする方がいいのではないかと思う。 ※一般就労率の目標達成はできなかったが、全体的には、達成できているので「B+評価」でいいのではないかとと思う。
地域貢献の推進	地域における清掃活動やボランティア活動等を通して、働くことの意義を確認しながら、生徒の自己肯定感・自己有用感を高めていく。また、清掃活動等の環境教育を通して、SDGsの達成にも取り組んでいる意識を育てていく。	【現状】 ①地域清掃等の貢献活動を実施することができている。活動回数・場所についても感染症対策以前の状態に戻す事ができている。地域住民からの感謝の言葉を受けながら、生徒のやりがいにつながっている。また、現在、清掃活動を行っている事業所としては、評価アンケートを実施する事ができた。 ②「よこい祭り給水ボランティア(万々商店街)」、「みかづきふれ愛フェア」に参加する事ができた。(給水ボランティアについては、教職員のみ参加) ③清掃活動と環境教育やSDGsとの関連についての学びは不十分である。 【評価指標】 ①働く意義の理解(他者や社会への貢献) ・地域・清掃活動の継続、各イベントへの参加 ・取組に対するアンケートの実施(実施対象の拡大) ②清掃活動を通じての環境教育の実施	①地域の清掃活動やボランティア活動を実施していくことで、働くことの意義を体験を通して学ぶとともに、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。また、地域の方へアンケートを実施し、取組の充実及び生徒の自尊感情・自己有用感の向上に努める。 ②今年度、参加することができなかった地域のイベントにも積極的に参加する。 ③環境問題を意識しながら、SDGsの視点をもって商店街等の清掃活動に取り組むことで、ごみの分別方法やリサイクルの重要性についての学びを深めていく。	B	①地域の清掃活動は週2回程度、実施する事ができている。(専門学校・公民館・小学校・駅周辺等)また、地域での清掃場所を増やすことができた。 ②ボランティア活動としては、「みかづきふれ愛フェア」の出演・「よこい祭り給水ボランティア」(万々商店街)へ参加する事ができた。 ③環境問題を意識しながら清掃活動を行った。作業(フードビジネス)では環境に配慮したビニール袋を使用して生徒たちが意識できるように取り組んでいる。	A	①地域での清掃活動を行うことができた(年:49回実施)。また、出張清掃先である初月小学校から感謝状をいただくことができ、生徒たちの自己肯定感の向上につながった。 ②「よこい祭り給水ボランティア」「みかづきまつり(PTA出店)」「みかづきふれ愛フェア(イベント参加・接客補助)」等の地域イベントに参加することができた。 ③職業科(作業学習)、家庭科において、環境教育を主体としたSDGsの取組を行うことができた。	A	①地域での清掃活動、行事への参加について、地域の方からお礼の言葉をいただいた。 ・地域行事に積極的に参加できている。生徒たちにとって様々な経験や体験ができる機会となっていると思う。また、他に、生徒たちが地域で活躍できる行事等を一緒に検討できればと思っている。 ・高知ろう学校との交流について、防災教育の他にも交流ができること生徒たちの意欲に繋がっているのではないかとと思う。 ※地域の清掃活動だけでなく、地域での行事や商店街との関わりをもてため「A評価」でいいのではないかとと思う。
		働き方改革	ワーク・ライフバランスを高め、健康で持続可能な職場づくりに努める。	【現状】 ①各分掌の業務内容、進捗状況を共有することにより、学校全体で様々な行事に取り組む事ができている。分掌による業務量の偏りは、少ないと考えている。 ②指導案・教材等の共有化は、できつつある。ICT機器を使用した教材の共有はまだまだ不十分。 ③グループウェアの活用はできるようになり、業務改善につながっている。 ④不祥事防止に向けて、教職員同士が相談しやすい職場環境づくりに取り組んでいる。 【評価指標】 ①各分掌業務の平準化と引継ぎ体制の構築 ・適切な人員配置 ・学校全体での協力体制の構築 ・副部長職の育成(指導・助言体制) ②教材等のデータの共有財産化 ・教材データの保存方法及び活用の周知 ・ICT機器を活用した授業内容の共有 ③グループウェアの積極的な活用 ④引き続き取り組んでいく。また、SC・SSWも積極的に活用していく。	①年度ごとに各分掌の業務内容の確認を行い、適切な配置人数を振り分ける。 ②「教材フォルダ」を引き続き活用し、改善につなげていく。 ③引き続きグループウェアの活用方法(文書取受、アンケート等)についての学習会を開催し、全教職員のスキルアップを図り、業務改善・軽減につなげていく。 ④管理職間で情報共有しながら、職場環境の改善に取り組む。	B	①各分掌業務の引継ぎについては、確実に実行できるように副部長的のポジションを設置することができている。 ②業務の効率化を図るため、「教材フォルダ」内のフォルダやファイル名(目付・内容を記入する等)の統一に取り組んでいる。アンケートの実施についてはまだ行うことができていない。 ③グループウェアの活用はできている。また、更なる活用推進のため、学習会を予定している。また、文章情報システムの活用にも取り組んでいる。 ④管理職間での情報共有は適宜、行うことができている。また、今年度から分掌管理職間での情報交換会を実施する事ができている。	①管理職から積極的に助言を行ない、分掌業務の平準化及び業務内容の見直しを進める。 ②「教材フォルダ」の充実を進めるとともに、利便性が高まる管理に取り組んでいく。 ③グループウェアの有効活用、文章情報システムの活用方法を引き続き検討していく。 ④引き続き、管理職間での情報共有に努める。	①各分掌の業務内容、進捗状況を共有することにより、学校全体で様々な行事に取り組む事ができた。また、引き続き地域イベントに参加することができた。 ②「教材フォルダ」の保存・活用は、少しずつできている。特に転動してきた教師にとっては、本校の学習活動を確認するうえで役立っていた。フォルダ・ファイル名については、検討を行いながら改善に努めている。 ③グループウェア、文章情報システムの活用については、学校全体でできるようになってきた。また、紙媒体で郵送していた業務を可能な限り、電子メールを活用するように努め、業務改善・軽減につながりつつある。 ④管理職間での情報共有については、適宜行うことができ、職場環境の改善に取り組む事ができている。